

第2期  
森町まち・ひと・しごと創生総合戦略  
(検討案)



令和2年 11 月

森 町

# 目 次

2章 まち・ひと・しごと創生総合戦略.....	3
1 総合戦略の概要 .....	3
（1）国・静岡県総合戦略との関係性 .....	3
（2）個別計画との関係性 .....	3
（3）総合戦略の期間と評価・検証の仕組み .....	3
（4）第1期総合戦略の効果検証.....	3
（5）新たな視点 .....	4
（6）SDGsの位置づけ .....	6
（7）森町まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像.....	7
2 基本方針 .....	8
（1）まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則 .....	8
（2）総合戦略の基本的な考え方.....	9
3 基本目標.....	10
（1）基本目標の考え方.....	10
（2）基本目標.....	11
5 戦略の推進に向けて .....	12
（1）計画のフォローアップ・進行管理 .....	12
（2）多様な主体と連携・協働 .....	12
（3）財源の確保 .....	12

上記目次の項目

「4 具体的な施策」

については、現在関係各課と調整中のため、今回の資料では非掲載にしています。

## 2章 まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 1 総合戦略の概要

#### (1) 国・静岡県の総合戦略との関係性

本戦略は、2019（令和元）年12月に策定された国の「長期ビジョン（令和元年改定版）」及び「第2期総合戦略」を勘案するとともに、静岡県における「長期人口ビジョン」「総合戦略」の方向性も踏まえ策定するものであり、本町の人口減少の克服と地域の自立かつ持続的な活性化に向けた現状と課題、めざす姿、そして今後の5年間の基本的な取り組み方向、項目を示すものです。

#### (2) 個別計画との関係性

本戦略は、町の最上位の計画に位置づけられる森町総合計画を上位計画とし、その他、町で策定している各分野の個別計画との整合性を図るものとします。

#### (3) 総合戦略の期間と評価・検証の仕組み

本戦略の期間は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間とします。

森町総合計画に基づき、実施してきた施策・事業について行政評価を実施し、施策の効果検証や進行管理を行っていきます。

また、行政評価の結果を踏まえて、次年度の施策や予算案の策定を行っていきます。本戦略に記載された施策・事業についても、総合計画と同様にPDCAサイクルを実施し、施策・事業が計画的に実行されるように進行管理を行います。

#### (4) 第1期総合戦略の効果検証

森町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「第1期総合戦略」という。）では、4つの基本目標に対応する【基本指標】と、18項目の【重要業績評価指標（KPI）】の数値目標を設定しています。今回、第2期総合戦略の策定にあたって、進捗状況を評価しました。

【基本指標】のうち、基本目標3と4の2項目は「目標達成」していますが、残りの基本目標は「未達成」でした。18項目の【重要業績評価指標（KPI）】のうち、3項目は「目標達成」しており、10項目については「目標達成」には至っていないものの数値改善が図られており、全体の7割の指標に関しておおむね順調な進捗状況となっています。

基本目標別の【重要業績評価指標（KPI）】では、目標1「ひと」は5項目中5項目、目標2「魅力と交流」は5項目中3項目、目標3「しごと」は4項目中4項目、目標4「安心」は4項目中1項目が「目標達成」または「目標達成」には至っていないものの数値改善が図られており、目標によって達成状況が異なる結果となっています。

91の事業のうち、68事業は「計画通り進捗した」あるいは「計画以上に進捗した」としており、「概ね計画通り進捗した」21事業を含めると、97.8%の事業が順調に進捗していると評価できます。

## (5) 新たな視点

国は、2019（令和元）年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を閣議決定し、第1期での地方創生の取り組みを「継続を力」にして、より一層充実・強化を図っていくという「第2期総合戦略に向けた基本的な考え方」や、第2期総合戦略で重点を置いて施策を推進する「6つの新たな視点」を示しています。

### ■「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に示された6つの新たな視点

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 地方へのひと・資金の流れを強化する<ul style="list-style-type: none"><li>◆将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大</li><li>◆企業や個人による地方への寄附・投資等を用いた地方への資金の流れの強化</li></ul></li><li>(2) 新しい時代の流れを力にする<ul style="list-style-type: none"><li>◆Society5.0の実現に向けた技術の活用</li><li>◆SDGsを原動力とした地方創生</li><li>◆「地方から世界へ」</li></ul></li><li>(3) 人材を育て活かす<ul style="list-style-type: none"><li>◆地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援</li></ul></li><li>(4) 民間と協働する<ul style="list-style-type: none"><li>◆地方公共団体に加え、NPOなどの地域づくりを担う組織や企業と連携</li></ul></li><li>(5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる<ul style="list-style-type: none"><li>◆女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現</li></ul></li><li>(6) 地域経営の視点で取り組む<ul style="list-style-type: none"><li>◆地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント</li></ul></li></ul> |
|--|

また、2019（令和元）年12月には、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」及び「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、これまでの施策の検証のもと、「継続は力なり」という姿勢を基本にし、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、地方創生の目指すべき将来や今後5か年の目標、施策の方向性等を示しています。政策体系については、第1期の総合戦略から一部見直しを行い、4つの基本目標と2つの横断的な目標を掲げています。

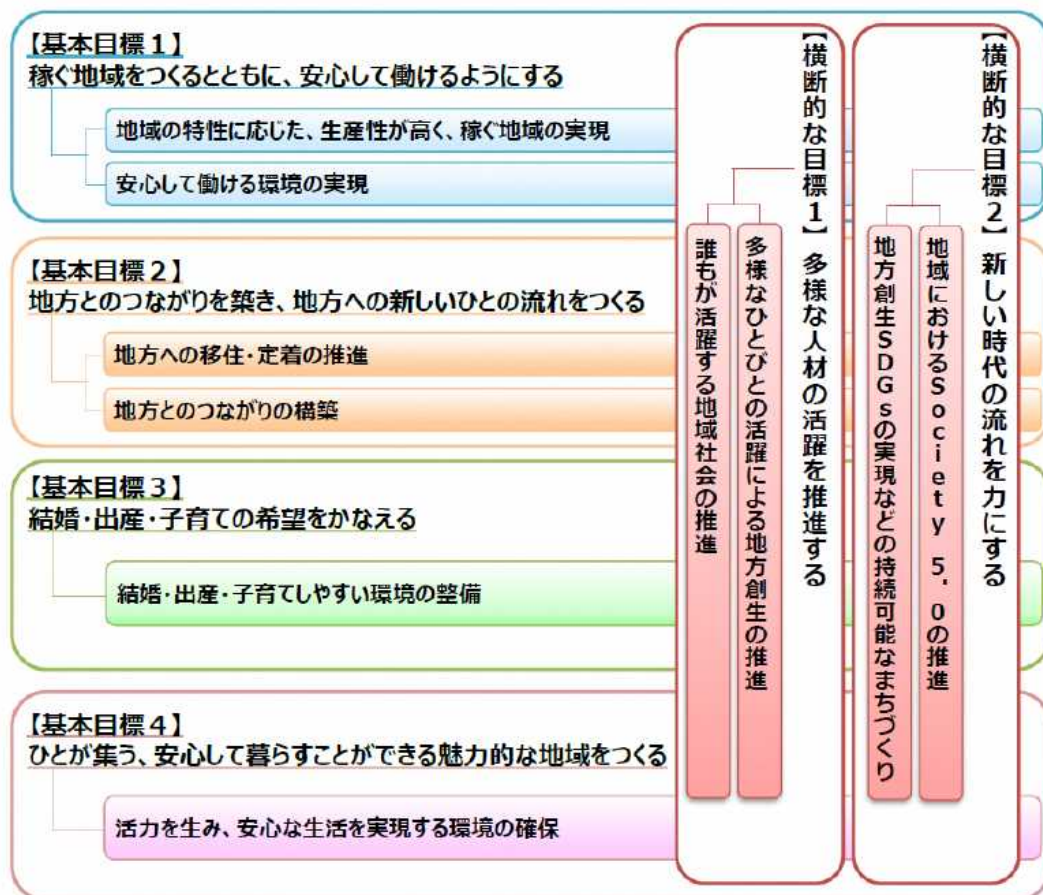
## ■横断的な目標の追加

### 多様な人材の活躍を推進する

地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画し、地域の内発的な発展につなげていくため、多様な人材が活躍できる環境づくりを進める。また、若者、高齢者、女性、障がい者、外国人など、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会を目指す。

### 新しい時代の流れを力にする

未来技術は、まち・ひと・しごとのあらゆる分野において、住民の生活の利便性と満足度を高める上で有効であり、地域の魅力を一層向上させることから、地方における未来技術の活用を強力に推進する。また、持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて、SDGsの理念に沿って進めることにより、政策全体の全体最適化や地域課題解決の加速化という相乗効果が期待できるため、SDGsを原動力とした地方創生を推進する。



## (6) SDGsの位置づけ

SDGsは、「Sustainable Development Goals」の略で、2015（平成27）年9月の国連総会において全会一致で採択された2030（令和12）年までの長期的な開発の指針「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなす「持続可能な開発目標」であり、国際社会共通の目標です。

SDGsは、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な17の目標及び細分化された169のターゲットから構成され、地球上の「だれ一人取り残さない」社会の実現を目指し、環境・経済・社会の諸課題を包括的に扱い、広範囲な課題に対する統合的な取り組みが示されています。

国は、SDGsの実施を総合的かつ効果的に推進するため、2016（平成28）年5月に、「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置しました。同年12月には「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」が策定され、国として優先的に取り組むべき8つの優先課題と具体的施策を定めるとともに、SDGs推進にあたっての自治体の役割の重要性を指摘しています。

本町において第2期総合戦略で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標であるSDGsの目指す17の目標とスケールは違うものの、その目指すべき方向性は同様であることから、第2期総合戦略の推進を図ることによって、SDGsの目標達成につなげていきます。





## (7) 森町まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

### 森町人口ビジョン 【2060年に13,000人を確保する】

#### ◎出生率を高める

合計特殊出生率 2035(令和17)年までに2.07を実現、以降もこれを維持

#### ◎社会移動を抑制する

2025(令和7)年以降の社会移動(転出入数)を均衡

## 森町まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 「人が生き・人とふれあい・“森”に暮らす」

#### 森町の創生に向けて

『ひと』: 町で若い世代が結婚や出産に希望をもち、子育てを楽しめるまちをつくる

『魅力』と『交流』: 町の魅力を高め多様な交流が生まれるにぎわいにあふれたまちをつくる

『しごと』: 町内外に雇用の場があり、誰もがいきがいを感じて働くことができるまちをつくる

『安心』: 町に誇りや愛着を感じながら、いつまでも安心して暮らせるまちをつくる

#### 総合戦略の方向

基本目標	施策の展開方向	具体的な施策	横断視点
<b>基本目標1</b> 『ひと』を育む ～“森”に学び育つ～	1 子育て支援の充実 2 若い世代の結婚・出産に対する意欲喚起 3 子どもを守り・育む環境づくり 4 教育力の強化・教育レベルの向上	①子育て支援体制の充実 ②保育・託児環境の充実 ①結婚相談・婚活支援 ②若年者への結婚・出産の啓発 ①地域ぐるみの子育て支援 ②ワークライフバランスの推進 ①教育力の強化 ②きめ細かな教育の推進 ③特色ある教育の推進 ④地域の教育環境の充実	<b>横断的な視点1</b> 新しい時代の流れを力にして誰もが活躍できる地域をつくる <b>横断的な視点2</b> 遠州の小京都として魅力を高め「住みやすく」「訪れたい」地域をつくる
<b>基本目標2</b> 『魅力』と『交流』をつくる ～人とふれあう～	1 「遠州の小京都」を核とした交流・集客の創出・拡大 2 広域交流ネットワークの形成 3 地域ブランドの創造・プロモーション	①地域資源を活かした観光地づくり・周遊促進 ②観光資源の発掘・魅力向上 ③国内外からの誘客促進とおもてなしの向上 ①周辺市町と連携した産業振興 ②友好都市との交流・連携 ①地域イメージ・ブランド力の向上 ②地域の魅力発信・プロモーション	
<b>基本目標3</b> 『しごと』をつくる ～人を活かす～	1 多様な人材の活躍の推進 2 働きやすさの向上 3 地場産業・既存産業の振興・活性化 4 起業創業、新産業の進出等の支援	①若者・女性・高齢者・障がい者・外国人等の活躍促進 ②外部人材の受け入れ・関係人口の創出 ①子育て世代の就労支援 ①農林業の活性化 ②商工業の振興 ①起業・創業の支援 ②企業誘致・新産業の創出	
<b>基本目標4</b> 『安心』をつくる ～“森”との共生～	1 健康長寿の延伸・元気な高齢者づくり 2 定住環境としての魅力向上と移住促進 3 町民活動・地域活動の活性化と効率的な行政経営 4 災害対策の推進	①健康長寿の延伸 ②元気な高齢者の活躍促進 ①道路交通環境の改善 ②移住・定住促進 ③町外就学者等のU・I・Jターン促進 ①コミュニティ活動の充実 ②協働を基礎とした行政運営 ③行財政改革・DX推進 ①防災資機材の充実 ②災害に対するための人材の育成 ③住宅の地震対策の推進 ④国土強靱化・防災減災対策	

## 2 基本方針

### (1) まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

森町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、国の総合戦略に掲げられている、「まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則」を踏まえて、以下のとおり事業を実施していきます。

#### ①自立性

本戦略では、町民や事業者、地元の関係機関等の活力を積極的に活用しながら、各施策が一過性の対症療法的なものにとどまることなく、森町や町民・事業者等の自立につながるよう、継続的に町の活力を再生・維持していくための事業を進めていきます。

#### ②将来性

本戦略では、地域産業や町民生活の活力を維持・創出することにより、町民・事業者等が町の将来に期待を持つことができるよう、本町が自主性・主体性をもって取り組むことができる施策・事業の展開に留意します。

#### ③地域性

本戦略では、新東名高速道路インターチェンジや町の活力を牽引する企業の立地、豊かな森林、農産物などに恵まれた、町の特徴や魅力を最大限に活かし、人と緑・産業が共存した質の高い豊かな暮らしが実現でき、子ども・若者・高齢者をはじめ、森町民のだれもが、まちに愛着と誇りを持って、いつまでも住み続けたいと思えるような施策・事業の展開が図られるよう留意します。

#### ④直接性

本戦略では、町民・事業者等との協働、多様な関係者との連携を一層強化する体制や仕組みづくりに取り組むなど、さまざまな主体が関わり合いながら、それぞれの役割を発揮し、政策効果をより高める工夫を行うことにより、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるための施策・事業の展開が図られるよう留意します。

#### ⑤結果重視

本戦略では、これまで総合計画において実施してきた進行管理・評価検証の仕組みを踏まえつつ、施策・事業に関するKPIを定め、PDCAサイクルのもとで施策・事業の効果や進捗状況の検証を進めていきます。これにより、政策効果を常に客観的な指標により検証し、必要な改善等を継続的に行っていき、結果を重視した実効性の高い施策・事業の展開が図られるよう留意します。



## （２）総合戦略の基本的な考え方

### ①基本的な考え方

森町まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、人口ビジョンで示した「2060年に13,000人を確保」することを目指し、また、将来にわたって、「**人が生き・人とふれあい・“森”に暮らす**」ことができる町であるよう、出生率の向上や社会移動の改善を図るために、今後5年間で重点的に取り組むべき施策・事業を位置づけます。

出生率の向上に向けては、結婚・出産・子育てに係る課題を取り除き、希望する人が安心して子どもを産み育てられるようなまちづくりを進め、合計特殊出生率の向上を目指します。

社会移動の改善に向けては、町内での雇用の確保・拡大や定住環境としての魅力を高めるまちづくりを進め、町外に転出した若者を生まれ育った森町に呼び戻すことや、できるだけ多くの人に居住地として森町を選択してもらえるようにして、社会移動数の改善を図ります。

### ②施策・事業の実施にあたっての留意点

上記の基本的な考え方を踏まえ、総合戦略においては、以下の点に留意して施策・事業の実施にあたります。

- 人口ビジョンの将来展望を実現するために「出生率向上」と「社会移動の改善」が期待できる取り組み効果の高い具体的な事業を選別し、重点的に実施していきます。
- 施策・事業の位置づけに際しては、施策対象（ターゲット）を絞り込み、事業効果の見込みを明らかにするなど、戦略性をもった取り組みとして実施していきます。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会活動、経済活動の様々な部分で新しい生活様式が提案されており、新しい生活様式を踏まえた社会・経済活動の構築に向けて柔軟な対応ができるようにしていきます。
- 総合戦略に位置づける施策・事業は、計画的な実施と進行管理を行うことを基本として、町の財政状況や、事業実施の効果・検証を図りつつ、実効性の高い現実的な取り組みとして実施していきます。
- 健全な財政運営を図るため、歳入の確保に努め、経済効果が高まるような視点で事業を実施していきます。

### ③総合戦略（計画）の進行管理にあたって

人口減少を克服するためには、中長期的に及ぶ取り組みになるとともに、不断の見直しと、施策の改善を重ねていく必要があります。

本総合戦略の推進にあたっては、基本目標や重要事業評価指標（KPI）、施策の進捗、効果等について、毎年度の有識者委員会による評価を実施するとともに、町民の皆様からのご意見等も参考にしながら、PDCAサイクルに基づく、継続的な改善を図ることにより、地方創生の実現を目指していきます。

※基本目標における数値目標：総合戦略に位置づける政策分野ごとの、5年後の基本目標を設定し、その達成度をはかるための数値目標

※KPI（Key Performance Indicator）：具体的な施策の進捗（効果）状況を検証するために設定する数値目標

### 3 基本目標

#### (1) 基本目標の考え方

国の総合戦略には、4つの「基本目標」と2つの「横断的な目標」が掲げられています。

基本目標1 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

基本目標2 地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

横断的な目標1 多様な人材の活躍を推進する

横断的な目標2 新しい時代の流れを力にする

本戦略では、国の4つの基本目標及び2つの横断的な目標を踏まえつつ、将来にわたって、「人が活き・人とふれあい・“森(もりまち)”に暮らす」ことができる町を目指すことから、「ひと」、「交流」、「しごと」、「生活環境」をキーワードとして、本町の地方創生にあたって具体的に取り組むべき方向性を示す「4つの基本目標」と「2つの横断的な視点」を設定します。

「4つの基本目標」には、それぞれの目標の実現に向けて取り組む施策・事業を位置づけ、「2つの横断的な視点」は各基本目標に位置づけた施策・事業の全般にわたり配慮すべき視点とします。

基本目標1 「ひと」を育む ～“森”に学び育つ～

基本目標2 「魅力」と「交流」をつくる ～人とふれあう～

基本目標3 「しごと」をつくる ～人を活かす～

基本目標4 「安心」をつくる ～“森”との共生～

横断的な視点1 新しい時代の流れを力にして誰もが活躍できる地域をつくる

横断的な視点2 遠州の小京都として魅力を高め「住みやすく」「訪れたい」地域をつくる

## (2) 基本目標

### 基本目標 1 「ひと」を育む ～“森”に学び育つ～

#### 【基本的方向】

◎町で若い世代が結婚や出産に希望をもち、子育てを楽しめるまちをつくる。

### 基本目標 2 「魅力」と「交流」をつくる ～人とふれあう～

#### 【基本的方向】

◎町の魅力を高め多様な交流が生まれるにぎわいにあふれたまちをつくる。

### 基本目標 3 「しごと」をつくる ～人を活かす～

#### 【基本的方向】

◎町内外に雇用の場があり、誰もがいきがいを感じて働くことができるまちをつくる。

### 基本目標 4 「安心」をつくる ～“森”との共生～

#### 【基本的方向】

◎町に誇りや愛着を感じながら、いつまでも安心して暮らせるまちをつくる。

### 横断的な視点 1 新しい時代の流れを力にして誰もが活躍できる地域をつくる

#### 【基本的方向】

◎Society5.0 の推進や SDG s の達成、アフターコロナを見据えた社会変革など、新たな時代の流れを力にした施策を推進し、誰もが居場所と役割を持ち活躍できるまちをつくる。

### 横断的な視点 2 遠州の小京都として魅力を高め「住みやすく」「訪れたい」地域をつくる

#### 【基本的方向】

◎遠州の小京都として育まれてきた地域の魅力をさらに高め、その魅力を活かしたまちづくりを進めることで「住みやすく」「訪れたい」まちをつくる。

## 5 戦略の推進に向けて

### (1) 計画のフォローアップ・進行管理

本戦略の期間は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間であり、目標年度までの毎年度において、PDCAサイクルによる進行管理を行っていきます。

また、森町総合計画との一体的な推進、静岡県総合戦略等との整合性、広域的な連携等の観点も考慮するとともに、国が提供する「地域経済分析システム」による詳細な経済分析、令和2年度に実施される国勢調査の結果なども踏まえ、随時見直しを図っていきます。

### (2) 多様な主体と連携・協働

本戦略に位置づけた施策・事業の推進にあたっては、町民や事業者等をはじめ、戦略策定段階から重視してきた産官学金労言の地域一丸となった総合的な取り組みの視点を今後も重視し、森町に関わる様々な主体との連携・協働での取り組みを継続していきます。

### (3) 財源の確保

本戦略に位置づけた施策・事業の推進にあたっては、地方創生先行型交付金をはじめ、国の財政支援制度や地方創生コンシェルジュ制度などの人的支援制度を含め、国の支援制度を積極的に活用していくとともに、本町での財源確保としても、総合計画に基づき、的確に予算措置を図っていくものとします。